

宮崎リハビリテーション学院

令和5年度 自己評価アンケート 結果報告

<調査対象者>

- 全教員 7名

回収率 100% (7/7名)

<調査時期>

- 令和6年2月27日～令和6年3月5日

<結果内容>

- 各評価項目の達成状況
- 各評価項目の課題及び今後の改善方策

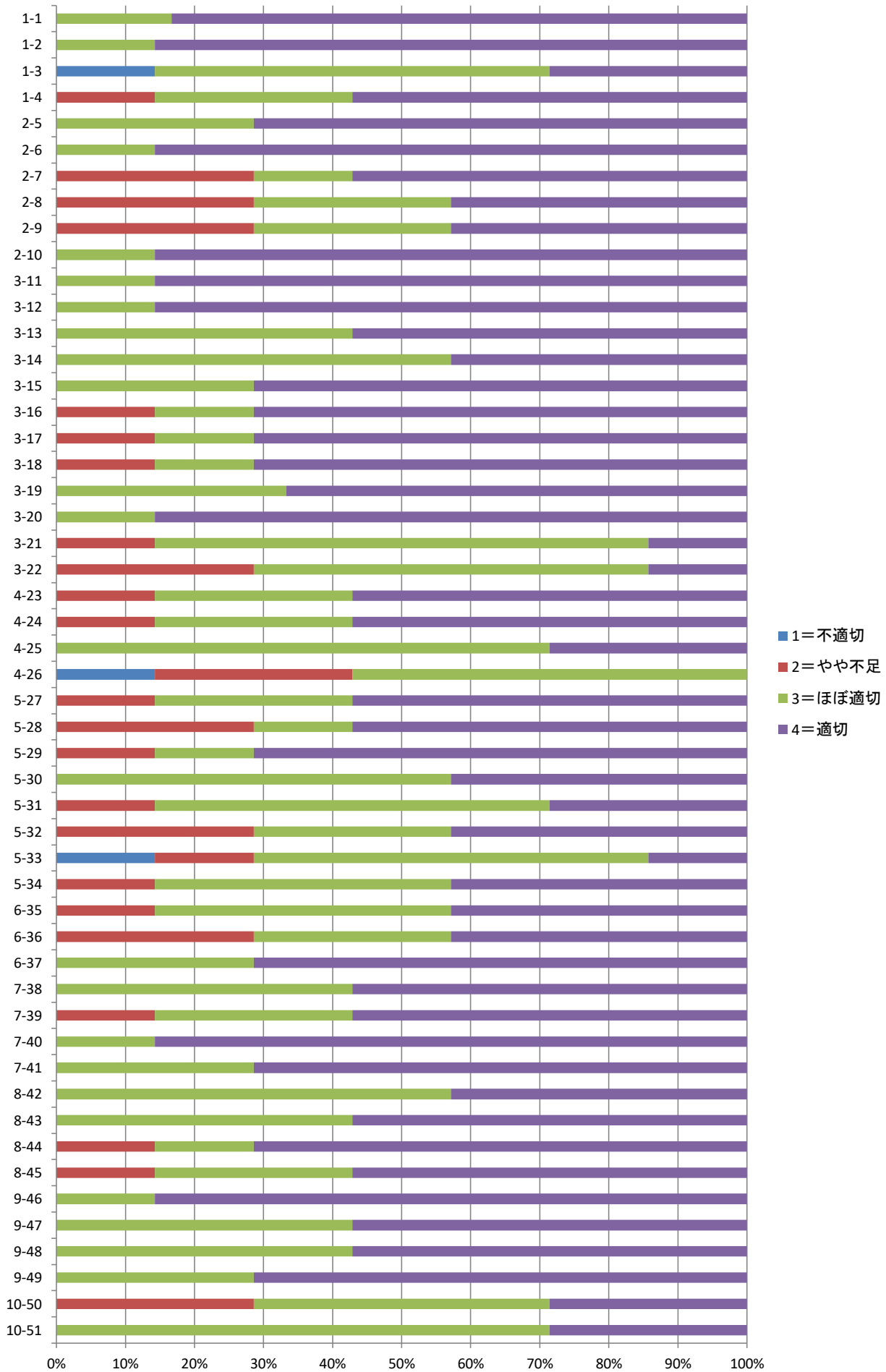
【自己評価アンケート結果;各評価の達成及び取組状況】

- | | | |
|------------------|---------|---------------|
| 1. 教育理念・目的・人材育成等 | 5. 学生支援 | 9. 法令等の遵守 |
| 2. 学院運営 | 6. 教育環境 | 10. 社会貢献・地域貢献 |
| 3. 教育活動 | 7. 学生募集 | |
| 4. 学修成果 | 8. 財務 | |

1=不適切 2=やや不足 3=ほぼ適切 4=適切

No.	質問	評価 平均値	件数(合計12)				比率			
			1	2	3	4	1	2	3	4
1	1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3.9	0	0	2	4	0.0%	0.0%	14.3%	71.4%
	2 学院における職業教育の特色が明確にされているか	3.6	0	0	3	4	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%
	3 社会のニーズ等を踏まえた学院の将来構想を抱いているか	3.0	1	0	4	2	14.3%	0.0%	57.1%	28.6%
	4 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等を学生・関係業界・保護者等に周知されているか	3.1	0	2	2	3	0.0%	14.3%	28.6%	57.1%
2	5 目的等に沿った運営方針は定められているか	3.7	0	0	2	5	0.0%	0.0%	28.6%	71.4%
	6 運営方針に沿った事業計画は定められているか	3.9	0	0	1	6	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%
	7 運営組織や意思決定機能規則等において明確化され、有効に機能しているか	3.4	0	1	2	4	0.0%	28.6%	14.3%	57.1%
	8 人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか	3.0	0	3	1	3	0.0%	28.6%	28.6%	42.9%
	9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.3	0	1	3	3	0.0%	28.6%	28.6%	42.9%
	10 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.6	0	0	3	4	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%
3	11 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.7	0	0	2	5	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%
	12 カリキュラムは、体系的に編成されているか	3.7	0	0	2	5	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%
	13 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が行われているか	3.6	0	0	3	4	0.0%	0.0%	42.9%	57.1%
	14 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラム作成・見直し等がおこなわれているか	3.3	0	0	5	2	0.0%	0.0%	57.1%	42.9%
	15 関連分野における実践的な職業教育(インターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3.6	0	0	3	4	0.0%	0.0%	28.6%	71.4%
	16 授業評価の実施・評価体制はあるか	3.4	0	0	4	3	0.0%	14.3%	14.3%	71.4%
	17 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.6	0	0	3	4	0.0%	14.3%	14.3%	71.4%
	18 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.4	0	1	2	4	0.0%	14.3%	14.3%	71.4%
	19 資格取得(国家試験合格)の指導体制はあるか	3.7	0	0	3	3	0.0%	0.0%	28.6%	57.1%
	20 教育目標に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.7	0	0	2	5	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%
	21 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組みが行われているか	2.9	0	2	4	1	0.0%	14.3%	71.4%	14.3%
	22 職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.9	0	2	4	1	0.0%	28.6%	57.1%	14.3%
4	23 就職率の向上が図られているか	3.3	0	1	3	3	0.0%	14.3%	28.6%	57.1%
	24 資格取得率(国家試験合格率)の向上が図られているか	3.6	0	0	3	4	0.0%	14.3%	28.6%	57.1%
	25 退学率の低減が図られているか	3.3	0	1	3	3	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%
	26 卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.6	1	1	5	0	14.3%	28.6%	57.1%	0.0%
5	27 就職・進路指導に関する体制は整備されているか	3.4	0	0	4	3	0.0%	14.3%	28.6%	57.1%
	28 学生相談に関する体制は整備されているか	3.1	0	2	2	3	0.0%	28.6%	14.3%	57.1%
	29 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備されているか	3.9	0	0	1	6	0.0%	14.3%	14.3%	71.4%
	30 学生の健康管理を担う組織体制があるか	3.1	1	0	3	3	0.0%	0.0%	57.1%	42.9%
	31 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.0	1	0	4	2	0.0%	14.3%	57.1%	28.6%
	32 学生の家族と適切に連携しているか	2.6	0	5	0	2	0.0%	28.6%	28.6%	42.9%
	33 卒業生への支援体制はあるか	3.0	1	0	4	2	14.3%	14.3%	57.1%	14.3%
	34 高校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	3.0	0	2	3	2	0.0%	14.3%	42.9%	42.9%
	35 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.3	0	1	3	3	0.0%	14.3%	42.9%	42.9%
	36 学外実習、研修等については、十分な教育体制を整備しているか	3.0	0	3	1	3	0.0%	28.6%	28.6%	42.9%
6	37 防災に対する体制は整備されているか	3.7	0	0	2	5	0.0%	0.0%	28.6%	71.4%
	38 学生募集活動は、適正に行われているか	3.6	0	0	3	4	0.0%	0.0%	42.9%	57.1%
	39 学生募集活動に於いて、教育成果は正確に伝えられているか	3.9	0	0	1	6	0.0%	14.3%	28.6%	57.1%
	40 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3.9	0	0	1	6	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%
	41 学納金は妥当なものとなっているか	3.7	0	0	2	5	0.0%	0.0%	28.6%	71.4%
7	42 中長期的に学院の財務基盤は安定しているといえるか	3.4	0	0	4	3	0.0%	0.0%	57.1%	42.9%
	43 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.4	0	0	4	3	0.0%	0.0%	42.9%	57.1%
	44 財務について会計監査が適正に行われているか	3.4	1	0	1	5	0.0%	14.3%	14.3%	71.4%
	45 財務情報公開の体制整備はできているか	3.3	1	0	2	4	0.0%	14.3%	28.6%	57.1%
8	46 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.9	0	0	1	6	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%
	47 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.6	0	0	3	4	0.0%	0.0%	42.9%	57.1%
	48 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.6	0	0	3	4	0.0%	0.0%	42.9%	57.1%
	49 自己点検・自己評価結果の公開はしているか	3.7	0	0	2	5	0.0%	0.0%	28.6%	71.4%
9	50 学院の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2.4	0	4	3	0	0.0%	28.6%	42.9%	28.6%
	51 学生のボランティア活動を奨励し、支援しているか	2.7	0	2	5	0	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%

集計結果(比率グラフ化)



【自己評価アンケート結果; 課題及び今後の改善方策】

1 教育理念・目的・人材育成等

①課題

- ・ 地域に根ざした理学療法士の養成に繋がる今の社会ニーズを分析した対応と学生指導
- ・ 将来構想については、目覚ましい変化が起こっている世界である中で、変えるべきであることも容易に変えることができない医療や介護・福祉の現場が就職先になるという背景であることから、学校として明確に示すのは困難となっている。
- ・ カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アドミッションポリシーはホームページで公開している。
- ・ 今後DX化も含めた教育の在り方を検討する必要がある。
- ・ ネット環境等の整備が必要
- ・ 教育ポリシーの共有(教務間、教務と保護者)、保護者への情報共有と協力をお願い

②今後の改善方策

- ・ 高校訪問やガイダンス業務等で各学校からの声を聞かせてもらう。
- ・ あらゆる情報を整理して、社会のニーズとして理学療法士にどういったことが求められる時代になるのか、教務で再検証する。
- ・ ポリシーをさらに周知するための方法を検討しなければいけない。
- ・ DXをベースにした教育の充実と効率化のために、まずインフラ整備をしていく。
- ・ ICT政策の中で検討していく
- ・ 保護者が、教育の現状を把握しやすいように情報共有を行う。

2 学院運営

①課題

- ・ 全体的に高年齢のスタッフとなっているため、学生との乖離がある。また、女子学生の比率からも女性教員が複数必要であるが現在1名しかいない、女性特有の問題は彼女がすべて対応せざるを得ない。
- ・ 情報共有のあり方が統一されていないため、非効率となっている。
- ・ 情報の公開は、今後リニューアルした学院ホームページで分かりやすい掲示を進めていく必要がある。
- ・ 処遇に関しては具体的にはなっていない。情報システムについては、これから改善の計画がある。
- ・ 明確化と含みを持たせる境界が分かりにくい。
- ・ どこまでが情報システム化なのかは不明確。
- ・ 業務の効率化

②今後の改善方策

- ・ 財団全体として、教員候補の人員確保できる体制を作る。
- ・ 共有情報のフォルダ名などは統一していく。
- ・ 学院ホームページでの情報公開の方法を見直す。
- ・ 教育はもちろん、業務の効率化のためのシステム構築をタスクフォースを中心に進める。
- ・ よくわかりません
- ・ 外注、ICTの活用

3 教育活動

①課題

- ・ 職員の能力開発研修と質の担保に繋がる関連業務をリンクさせる。併せて授業評価を高めるICT教育の推
- ・ 3-20については、現時点のみを見ると問題はないが、将来的に見て「2学院運営」と同等の課題がある。
- ・ 教育・指導体制については、本来はもっと学生に対する時間を設けるべきであるが、間接的な業務が多すぎて大きな負担となっているように思える。
- ・ 教員間の授業評価が十分とはいえない。
- ・ 学生へのキャリア教育が現在の学生の資質に合致していない可能性がある。それに見合った教育資源や技術の習得が課題。
- ・ 担当する授業評価が自分で確認ができないため不明確
- ・ カリキュラムの変更に関する考慮(地域研修と実習時期を同時に変更する)には、やや学担の負担が大きいと思う
- ・ 職業教育に対する外部関係者からの評価があるのか不明確
- ・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確であるのか、年単位で変更するのか不明確
- ・ ポリシー、方針の共有

②今後の改善方策

- ・ 教員が上記課題の検証作業を行う。養成校同士の情報交換会
- ・ 広告・宣伝、学生募集など、教育活動以外に要している時間や内容を、効率化する。また、委託することも検討する。
- ・ 教務サポートの増(例えば病院からの派遣)などから、実技において複数名の教務で行えるような体制づくりをしていく。
- ・ 教員間の授業評価の仕組みをつくっていく。
- ・ 学生の資質の評価や個別性の指導体制を構築する。
- ・ 授業評価共有
- ・ カリキュラムの変更に関する考慮
- ・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確であるのか、年単位で変更するのか検討
- ・ ミーティング、研修報告会などの機会を増やす。

4 学修成果

①課題

- ・ 卒業生の社会的評価に関わる情報について、入手方法が限られている。
- ・ 各施設、特に県内の施設については、理学療法士が充足している状態となってきているため、就職率「向上」が困難な状況。
- ・ 卒業生に関する情報は把握するための手段がない。
- ・ 早い段階での就職斡旋が必要である。
- ・ 学生の退学、留年に対する具体的な対策は十分とは言えない。また社会的活動に対する具体的な内容や評価について明確になっていない。
- ・ 資格取得率(国家試験合格率)の向上が優先か、チャレンジが優先か不明確
- ・ 卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握の何かツールがあるのか。またどこまでを把握と呼ぶのか不明確
- ・ 単なる情報提供だけでは、対応しきれない学生が散見。

②今後の改善方策

- ・ 卒業生で活躍している方にオープンキャンパスなどで講話を依頼する
- ・ 創立45周年または50年といったタイミングが来るので、その記念式典の開催。
- ・ 早い段階で学生への就職への意識づけ、活動の方法を指導していく。
- ・ 入学から卒業まで一貫した学習指導体制を検討する。また社会的活動を明確にし評価基準を検討する。
- ・ 資格取得率(国家試験合格率)の向上が優先か、チャレンジが優先かの検討
- ・ 卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握の何かツールを作成する。しかし必要かは検討。
- ・ 個別対応の機会を増やしていく。

5 学生支援

①課題

- ・ 就職相談室およびそこでの案内、面談室など、ハードは設置してあるが体制とまではなっていない。
- ・ 高校と連携して職業体験授業などを実施しているが、県内全ての高校には実施できていない。
- ・ 学生の心理面への相談業務などが不十分。また卒業生へのキャリア支援は具体的に行っていない。
- ・ 就職支援室があるのみ。または就職の案内。学生が相談に来るような印象はない
- ・ 卒業生への支援体制はあるが、機能しているのか不明確
- ・ 高校との連携や保護者との連携の機会が少ない。

②今後の改善方策

- ・ ネットワークと情報開示の提供
- ・ この項目の具体的な実践例の情報を入手し、当学院に適合するものを積極的に導入していく。
- ・ 学院側からもさらに積極的に高校側へアピールをして、職業体験授業を実施していく。
- ・ 学生の心理面の相談窓口や、卒業生へのキャリア支援窓口の設置。
- ・ 就職支援がどこまで教務が必要なのか検討
- ・ 高校訪問・保護者会等で情報を収集する。

6 教育環境

①課題

- ・ 一部備品が使用不可の状態となっている。
- ・ 学外実習先が学生人数分(1施設につき1名と考えた場合)確保されていない。記念病院に多くの学生をお願いしなくてはならず、記念病院のスタッフの負担も増加傾向にある。
- ・ デジタル化を推進するための準備が十分とは言えない。
- ・ あるだけの設備もあり、整備されているとは言い難い
- ・ 学外実習、研修等については、ボランティアの案内がほとんど
- ・ コロナ禍を経て、また指導者要件が増えたことにより、実習受け入れ施設の減少あり。

②今後の改善方策

- ・ 備品管理の徹底。
- ・ 実習地開拓のための、病院廻り。
- ・ DX化に伴いインフラの整備が必須である。
- ・ まずはメット環境の整備が必要
- ・ 実習施設の確保に努める。

7 学生募集

①課題

- ・ 教員以外の広報担当職員が不在。
- ・ 学生募集については、教務が講義や学生指導と同時進行で行っているという現状であり、業務過多な状態である。
- ・ 学生募集は、進路ガイダンスや高校訪問、学院ホームページ公表などで活動しているが、さらに他の方策も検討して、多くの高校生に周知されなければならない。
- ・ 学生募集時に教育内容や学習効果についての具体的な開示があまりない。
- ・ 学生募集活動に於いて、教育成果は正確に伝えられているかのは誰に伝えるのか。
- ・ 学生募集活動の効率化

②今後の 改善方策

- ・ 教育環境整備や長期学院運営構想に準じた学納金の見直し
- ・ 学院事務の補強により、基本はこちらで対応する。
- ・ 新たな学生募集の活動方法の検討が必要。
- ・ 教育に関する方略や資源の明確な説明手段を整備する。
- ・ 外注・ICTの活用

8 財務

①課題

- ・私の認識不足かもしれないが、一般教務としては、会計監査自体の実施および財務情報公開については、知らない。
- ・特に問題なし
- ・概ね良好 少子化対策

②今後の 改善方策

- ・職員への年度事業決算と長期事業予算計画を周知させ収支損益に関わる収支計画を意識させる。
- ・会計監査または財務情報の公開が実施されるのであれば、その予定および結果の通知・通達をHPなどで行う。
- ・特に問題なし

9 法令等の遵守

①課題

- ・ 教員のデスク上に、学生名簿が置いてあることがある。
- ・ 個人情報に関するリスクに関する意識がやや脆弱である。
- ・ 概ね良好

②今後の 改善方策

- ・ デスク上の整理を常に心がける。
- ・ 定期的な研修やチェック体制の強化を実施する。

10 社会貢献・地域貢献

①課題

- ・ 財団関連行事にも可能な内容には、学生も参加させる。
- ・ 学校施設の一般開放は、職員関係者に限定されている印象がある。
- ・ ボランティアは情報提供に終わっている。
- ・ 学生ボランティアの紹介し、支援を行っているが、学院としてさらに継続した支援が必要である。
- ・ 十分行われている。
- ・ コロナ禍の影響あった。

②今後の改善方策

- ・ HPなどで、施設利用情報を提示する。
ボランティアに関しては、情報提供に加え全ての教員が積極的な同伴を行っていく。
- ・ 継続したボランティアの支援を進めていく。
- ・ 強いて言えば、学内での催しなどを通じて、地域とのつながりを持つとよいと思われる。
- ・ 可能な限り学生のボランティア活動を奨励し、支援している
- ・ 施設の活用、ボランティアの推奨、地域の介護予防等の場面に人材派遣等